



福井地震 記憶生かそう

いなば あやり
稲葉 綾里さん(丸岡中2年)

く、今後の地震に「備える」大切さを教えてくれているのだと思います。

いつ福井にまた地震が起きてもおかしくありません。大地震が起きたとき、どのような行動をとったらよいのか、そのときのためにどのような備えをしたらよいのか、体験者が伝えてくれたことを生かして考えていくことが必要です。もしかしたら1分後に起きるかもしれない。明日起きるかもしれない。このような「かもしれない思考」をもつことが大切だと思います。

みなさんも70年の節目をきっかけに、家族や学校、地域で震災について話し合ってみませんか。

震度階級の最大値「7」を設けるきっかけになった福井地震が起きてから今年で70年。当時の被災者の方々が震災の恐ろしさを後世に伝える活動をしています。

私も小さいころから曾祖父母に当時の地震の様子を聞かされてきました。このように体験者が未経験者の私たちに福井地震の記憶を伝えてくれることは、地震を身近に感じるだけでな

福井地震 70年

被災者の記憶紙芝居で
松岡中 生徒30人 惨状聞き入る

福井地震から70年を記念し、福井県立松岡中学校で、福井地震の体験者から話を聞いた紙芝居の上演が行われた。紙芝居は、被災者の体験を基にしたもので、当時の様子を伝える。生徒たちは真剣な表情で紙芝居を見入っていた。紙芝居の上演は、福井地震の記憶を伝える貴重な機会となった。

福井地震の体験者を基にした紙芝居を聞く生徒たち。22日、永平寺町松岡中